

65 自閉症支援に対する専門性向上を目的とした

コンサルテーション型支援の報告

秩父学園 療育支援課 村上耕祐 須永貴之 齋藤信哉

【はじめに】 自閉症療育が必要とされているA事業所に対して、訪問による座学・実践研修（コンサルテーション型支援）を実施した結果、当該事業所の自閉症に対する専門性や理解の向上が見られた為、報告する。

【期間】 平成 27 年 7 月～平成 29 年 1 月

【方法】 コンサルテーション型支援として実践した内容は以下の通りである。

1 年目・A事業所を訪問して 3 日間の研修会開催。（H27/7/8～10）

- …座学研修：自閉症の特性と支援方略の理解についての講義。
- …実践研修：実際の困難ケースを通じ、自閉症の特性に配慮した支援方法を学ぶ。
- ・定期的な経過報告（2ヶ月毎）と、それに対するアドバイスの実施。（計3回）
- …支援の経過として記録とDVD映像を郵送してもらい、アドバイスを返送する。
- ・フォローアップとしてA事業所を訪問し、研修会開催。（H28/2/19）
- …座学研修：「具体的な支援の方法」と「困難事例に対する実践報告」の講義。
- …先方職員による実践研修の対象2ケースについての実践報告。
- …支援チームリーダーとケース支援担当者へのフィードバック。

2 年目・郵送による支援の経過報告と、それに対するアドバイスの実施。（計2回）

- ・再フォローアップと訪問支援のまとめとして、A事業所にて研修会開催。（H29/1/24）
- …座学研修：基礎的知識の再確認・行動問題の評価と対応の見直しについて。
- …実践研修：困難ケースについて、実際の支援内容の再構造化と対応の検討を行う。

【結果】 研修参加者（延べ124名）に対し、開催前と開催後に実施したアンケート（自由記述式）をテキストマイニングにて分析した。H27年7月の研修前では自傷行為等の行動自体への着目が多かったが、H27年7月の研修後では「自閉症」「特性」「個別対応」のキーワードが多く出ており、行動の背景に着目した事が伺えた。半年間、実践を重ねた後のフォローアップ研修後では「チームアプローチ」と「個別対応」のワードが多く見られた。1年後に実施したまとめの研修前アンケートでは、支援方法のカテゴリが最も多いが、初期と比較して、内容が具体的であり、ワードも分散していた。研修後では、「基礎理解」「方向性」「共通理解」等と「障害」「支援」等のワードが関連して見られた。

【考察・まとめ】 アンケート結果の分析から、自閉症の特性や支援方略等の基礎知識を得る事で、行動のみでなく、行動の背景や原因を理解しようとする変化がみられた。特に身近な困難事例への支援を取り上げた事で、得た知識を基に、支援の幅が広がったものと思われる。事業所単位で行う実践研修は自閉症支援の専門性向上のみならず、チーム力の向上など事業所に寄与できる面が大きい。管理者からも職員のモチベーション向上が見られたとの評価を得た。今後もこのようなコンサルテーション型支援を発信して行きたいと考えている。